

山都町の10年間を振り返る

今年、山都町は合併して10周年を迎えました。平成17年2月11日に旧矢部町、旧清和村、旧蘇陽町の三町村が合併して誕生した山都町。総面積は約545㎏という、県内でも広大な面積を誇ります。まわりは阿蘇南外輪山と九州脊梁山地に囲まれ、森林が町内の大半をしめ、自然豊かな町です。また古くからの歴史ある文化財や、神楽、文楽をはじめとした伝統文化が今日まで伝えられています。今回は合併10周年を記念し、10年間に町内であった主な出来事を振り返ります。

平成十七年 二〇〇五年

2月11日に三町村が合併し「山都町」が誕生した記念すべき年となりました。この年は、熊本県内でも平成の大合併により多くの自治体が合併をした年でした。町内では図書館の毎年恒例行事となった「絵本カーニバル」や、古くから残る歴史ある道を歩く、「日向往還歴史ウォーク」が初開催されました。

平成十九年 二〇〇七年

町民憲章が制定され、町花をカタクリ、町木をもみじ、町鳥をオオルリに、またキャッチフレーズを「風かおる、文楽と石橋の郷 山都町く星と森、そして水の生まれる里」と制定しました。また、山都町誕生記念事業として「検証阿蘇家入領八百年」などが開催されたほか、九州横断自動車道延岡線の工事が始まりました。

平成十八年 二〇〇六年

町内の旧校区を単位とした28地区の自治振興区制度が運用を開始しました。また、6月には記録的な集中豪雨があり、町内各地で災害が発生し甚大な被害をもたらしました。

平成二十年 二〇〇八年

町の運営するコミュニティバスの運用を開始しました。また「通潤用水と白糸台地の棚田景観」が文化財保護法による「重要文化的景観」に指定されました。旧白糸第三小学校跡に通信制高校である一ツ葉高校が開校したほか、馬見原の旧宿場町が「くまもと景観賞」を受賞しました。





平成二十一年 二〇〇九年

町内で取れた食材を使用した、コロッケを主体とした「山都ころっけ街道」が11月にスタートし、町内各地の店舗で販売を開始しました。また、井無田のへき地保育所が3月22日をもって閉所しました。

平成二十三年 二〇一一年

まちづくりや研究と一緒に進んで行くため、熊本県立大学と包括協定を締結しました。また、この年は3月11日に東日本大震災が起こり、甚大な被害が起こったことから、全国へそのまち協議会に加盟する8市町村間（山都町は「九州のへそ」）で「災害時相互応援の覚書」を締結しました。また、読書をさらに身近なものとするため、町立図書館で移動図書館「わくわく号」が運行を開始しました。

平成二十二年 二〇一〇年

白糸台地の全域（468ha）が「重要な文化的景観」に指定されました。蘇陽地区の白石地区に伝わる白石神楽が、第5回白石お天とうさん祭りにて夜渡神楽33座を完全復活。古くから伝わる伝統文化が今に蘇りました。

平成二十四年 二〇一二年

長年続いた大野小、菅尾小、馬見原小が3月31日をもって閉校となり、三校区をまとめた蘇陽南小学校が新たに開校しました。また、町内に二校ある県立高等学校、蘇陽高校が閉校し、島木のへき地保育所も閉所。熊本バス浜町営業所閉鎖に伴い、山都ふれあいバスセンターを開所しました。また、「第18回全国棚田（千枚田）サミットin山都町」が開催された年でもあります。

平成二十五年 二〇一三年

2月24日に執行された山都町長選挙にて工藤秀一町長が当選し、新体制が始動しました。また、本町の顔でもある新庁舎の建設が着工しました。町立病院である蘇陽病院が旧馬見原中学校跡に移転新築し、「包括医療センターそよう病院」として始動しました。

平成二十七年 二〇一五年

そして今年、山都町は合併10周年を迎えました。皆様にとってこの10年間はどんな年でしたか？その時は小さな一つの一歩ですが、思い返せば大きな進歩をしています。これから先も10年、20年と続いていく中で、どのような歩みがあるのでしょうか？その山の都に皆さんはどのように関わっていきますか？

平成二十六年 二〇一四年

ICID（国際かんがい排水委員会）により、「通潤用水」が「世界かんがい施設遺産」の一つとして登録されました。12月24日、平成25年から続いていた新庁舎の建設完了し、落成式が行われました。



特別ゲストにインタビュー

今回、10周年を記念して6人の子どもたちにお話を伺いました。6人は平成17年2月生まれ。山都町が生まれた月に生まれた子ども達です。

(清和小学校)

石原 柚希くん 川口

今、頑張っていることは算数です。特に図形の計算を頑張っています。なかなか難しくてちょっと苦手なので、いつかすらすらと簡単に解けるように、頑張っています。この町のおすすめスポットは川口地区にある神社の近く。よく神社の周りで友達と一緒に遊んでいます。特に神社の近くにある洞窟がおススメの場所。まだ一度も洞窟の中には入ったことがないけれど、いつか入ってみたいなって思っています。将来の夢はコンビニの店員さんです。コンビニはお客さんがいっぱい来るし、お客さんと色んな会話ができるから。他にも機械を触るのが好きだから機械の整備士とかにもなりたいたいし、天文台でも働きたいです。



(蘇陽小学校)

穴見 春登くん 大見口

今、学校生活で頑張っていることはサッカーです。これまでサッカーをしていて、ゴールが決まったときは凄く嬉しかったです。だから、もっとシュートの練習をして、たくさんゴールが決まるように頑張りたいです。この町のおすすめスポットはやっぱり「そよ風パーク」です。野菜やブルーベリー、他にもいろんなものが売ってあるからです。それに、僕たちも10月に野菜の販売をしました。その時は凄く緊張したけれど、売れた時はとても嬉しかったです。将来の夢は、お父さんと家の牛の世話をすることです。お父さんはいつも朝早くから夜遅くまで牛の世話をしています。自分も何度が手伝ってお父さんと一緒に頑張ってたので、大人になったら一緒に牛の世話を頑張りたいです。



(清和小学校)

梅田 卓実くん 須原

今、頑張っていることは、国語の勉強です。いっぱい勉強して漢字も覚えたいし、もっと字がうまく書けるようになりたいからです。町のおすすめスポットは、通潤橋が大好きです。前に社会科見学で円形分水から通潤橋まで歩いて、その時に通潤橋を見て好きになりました。他にも清和文楽館の芝生広場とかもよく遊びに行きます。広い広場なので友達とよく一緒に遊びに行ったりしてとてもおすすめです。将来は水泳選手になりたいです。小さい頃からスイミングスクールに通っていて水泳が大好きだからです。もっと練習をして早く泳げるようになったら、いつかはオリンピック選手になって日本を代表する選手になりたい。そして金メダルが獲りたいです。



(蘇陽小学校)

工藤 那月ちゃん 大見口

今、頑張っていることは部活の音楽部の練習です。楽器の担当はアルトアコーディオンです。楽器の演奏が大好きで、今は6年生の心に残る卒業式になるように、入場・退場曲の練習を頑張っています。町のおすすめスポットは「蘇陽峡」です。展望所からの景色が凄くいいし、谷の下にはきれいな川が流れているからです。それと、夏の学年行事で行った「歌瀬キャンプ場」もおススメです。手作りプールで遊んでとても楽しかったです。将来の夢は美容師になることです。それは、いとこのお母さんが美容師をしていて、私もいろんな髪型にアレンジするのが大好きだからです。将来、夢が叶ったら、最初に家族のみんなの髪を切ってあげたいです。



(矢部小学校)

吉永 悠人くん 下馬尾

今、一番頑張っていることは3年生になってから始めた卓球です。同級生のライバルにはもちろん、誰にも負けないような強い選手になりたいです。学校の授業では体育が大好きで、特にドッジボールが大好きです。この町のおすすめスポットは通潤橋。友達とよく一緒に遊びに行って、橋の上まで登ったりして遊んでいます。他にも中央公民館裏にある公園。遊具がいっぱいあるし、友達と一緒に遊んだりしています。将来の夢は、今頑張っている卓球選手。これからもずっと続けていきたいし、大人になったらオリンピック選手として出場したいです。どんな強い選手と対戦しても絶対に負けない強い選手になりたいし、いつかは金メダルを獲れればと思っています。



(潤徳小学校)

坂田 葵ちゃん 下名連石

小学校生活で頑張っていることは、漢字の勉強です。漢字をたくさん覚えたいです。その他にも、学校の部活でやっているバスケットボールも頑張っています。ゴールできたとき凄く嬉しいからシュートしたら確実にゴールが決まるようにいつも頑張って練習しています。この町のおすすめスポットは下名連石にある丸山ハイランドです。昼は山の上からの眺めが凄くいいし、前に爺ちゃんに夜連れて行ってもらって、その時見た星空が凄く綺麗だったからです。将来の夢は保育士。自分のいとこに赤ちゃんがいるので、世話をしていたら、家族のみんなに「面倒見がよくて、上手だね。」と褒められたことがあり、その時に将来は絶対保育士になりたいと思いました。



町長室から 工藤 秀一

本年2月で合併10周年を迎えることができました。これもひとえに町民の皆様方をはじめ、本町を支えていただく方々のご理解とご支援の賜物です。心よりお礼を申し上げます。

県内でも数少ない、郡域を超えての合併でした。しかし、まったく異文化の町村が合併したのではありません。成るべくして合併した旧三町村の関係を述べてみることにします。

山都町域は、阿蘇南外輪山一帯を占める位置にあります。阿蘇山は27万年前から9万年前までの4回の巨大カルデラ噴火を経て現在の姿ができたもののですが、その火砕流により形成された地質的特徴は旧三町村とも同一です。矢部・清和・蘇陽地区に点在する滝、溪谷などは、すべてこの地域に特徴的な

溶結凝灰岩で形づくられており、いずれも名勝としてすばらしい風景をなしています。この溶結凝灰岩は加工しやすく、比較的硬く頑丈でもあるため、石造アーチ橋、石垣など広く山都町一帯の暮らしに利用されています。

また、この溶結凝灰岩は保水力に優れ、しっかりと蓄えられた水は、やがてなだらかな丘状地に清らかなミネラルウォーターとして湧き出します。中世以前の治水がままならない平野部に比べ、この町の湿地は原始的な水田を開発するのに容易なため、古くから人の生産活動と共に集落が発展してきました。

加えてこの町の特徴として、古代遺跡の発掘の結果から、北九州、南九州、四国などの色々な様式の土器が集まる場所であることが分かっています。これは東九州と西九州の往来の中間地であったことを示しています。この東西の結節点としての役割は、矢部・清和・蘇陽地区まで一体となることで初めて機能

します。その理由は、中世の阿蘇氏が現在の矢部高校の地に本拠地を構えた理由とも重なります。前に述べたように豊かな土地であったことに加え、矢部・清和・蘇陽地区全体を一つにして治めることで、九州のど真ん中において五ヶ瀬・椎葉方面、大分方面、阿蘇南郷谷方面、御船方面、甲佐方面、美里方面など、東西南北の物流の主導権を握ることができるところです。

阿蘇氏が本町に拠点を移したことに伴い、その家臣団がこの町に移り住み、それを支える農地などの開発が盛んに行われ発展し、九州中央部における政治・経済・文化の中心地となりました。ちなみに町内各地に城跡があります。その殆どは阿蘇氏の本城を守る支城であり、地名もそのことに由来する集落名が見られます。

江戸時代以降、日向往還が整備され、東西の結節点としての役割が顕在化し、日向往還沿線の町場として「馬見原」「浜町」の二つの町が形成され発展して

きました。

このように山都町は、地勢の成り立ちのところで共通する豊かな自然環境、互いに関連・連携してきたすばらしい歴史や文化があり、そこにいきづく精神風土があります。古くからこの町は一つなのです。

合併10周年を契機として、この町に住むすべての人々が、さらに一体となりまちづくりを考え、進められることを期待します。

そして、この町に住む人々が誇りを持ち、希望を持つことによつて、本町の光を示し、将来の夢へとつないでいくことが重要であると確信いたします。

幸いにも、新庁舎開庁も10周年と同時期になり、職員ともども心を新たに、町民の皆様と共に元氣いっぱい「山の都」づくりの未来へ向けて、なお一層の努力を重ねる決意です。

今後とも更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。